

条例第18条の2第2項に規定する自主規制団体からの聴き取り結果

(令和4年5月11日実施)

	図 書 名 等	聴 き 取 り 内 容
1	<p>DAISY COMICS こんなS彼に抱かせたいBL 令和4年4月30日発行</p>	<p>様々な作家さんの個性と才能が詰まった1冊。性描写の登場回数が多いのであれば、液体表現や修整の仕方、性器の形状を露骨に見せない工夫が必要。区分陳列した方がよい。指定該当やむなし。</p> <p>レイプや人格否定等の描写はなく、ほぼ1対1の恋愛を描いている。一部、道具使用があるものの、内容面ではほぼ問題はない。気になるのは甘い性器修整。数本の白線で性器を隠しているのみで、形状が分かり、卑わい度は高い。指定該当やむなし。</p> <p>修整がされていないのに等しく、性描写も多い。指定該当やむなし。</p> <p>7つの短編からなり、それぞれ絵もきれいで、人格否定的なものは感じられないが、どれも性器の描き方が似ていて、形状が分かり白線数本で消している。擬音、体液の描写も多く、結合部のアップもある。指定該当。</p> <p>暴力的・強制的なセックス描写、拘束と器具の使用と人格否定が目にする。擬音・体液・精液描写も激しい。性器修整も白線2、3本のみなので、修整されているとはいえない。しかも誇張されている。指定該当。</p> <p>強制的・暴力的な描写は少なく、人格を否定するような場面や残虐性を助長するようなシーンは見られなかったものの、全体的に性的シーンが多く、性器の消しも甘い。ストーリー性もあまりなく性描写が主体である。指定該当やむなし。</p> <p>性器の描写が多く、修整については部分的な白抜きや輪郭程度の主線だけにして一定の配慮が感じられるものの、体液と擬音描写で補完しており、物足りない。道具を用いた大人向けのエピソードなどを含めて総合的に判断し、成人向き。指定該当。</p> <p>アンソロジーのため、一話の中で必ずセックスに至るので、性描写の割合が多い。性器の修整は甘く、体液描写も多い。暴力や強制はないものの、特に道具の使用は身体を傷つけかねないため、興味本位で模倣されると危ない。指定該当。</p> <p>多才な作家さんたちのアンソロジー。極めて技術が高い。オムニバスだけに展開が早く、すぐ性交渉が始まる。人格否定等は感じられないが、これだけ性交シーンが多く、かつ性器の修整の甘さ、一部器具の危険な使用、擬音、体液描写を見るに、指定該当やむなし。</p> <p>7作のアンソロジー。性器は白帯数本のみで消し、形、質感がわかる。拘束、器具は人格否定ではない。画角の工夫も見られる。性描写の量からすると卑わい感は少なめだが、編集上の配慮が十全とはいえない。指定該当やむなし。</p> <p>タイトル通りBLでSとMに特化したアンソロジーコミック。強制感はあまり感じず、展開も早く読みやすかったが、男性器の消し方が粗すぎて青年レベルを超越している。指定該当やむなし。</p> <p>BL作家7人のアンソロジー。1人当たり14頁～40頁の中にエロを入れると全体的にエロばかりになる。また、男性器の消しが白い長方形なので全体のフォルムが分かるのが特に問題。保留。</p> <p>人格を否定する性的行為を容易に連想させる内容とはいえないが、道具を使ったSM描写などが一部ある。保留。</p> <p>SMでは器具を使用しているものの、設定を考えれば許容範囲。作者によっては性器及び結合部の修整は甘く感じるが、あまり卑わい感を感じず。指定非該当。</p> <p>それぞれの作品に画力があり、ストーリーがあり面白い。携帯画像で撮る行為はいただけない。道具を使用している作品もあるが、暴力・人格否定にはつながっていないので指定非該当。</p>